

玉燈

～タイトル「玉燈」によせて～

「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫齋の代表的発明品としても知られています。

「7ならべ」

長浜市教育委員会
教育長 織田 恭淳



小学校のスタートカリキュラムを視察しました。広々としたスペースでは、1年生の子どもたちがものづくりを楽しんだり、ドンジャンケンで盛り上がりつつありました。また、中庭では音楽に合わせた体操で体をしっかり動かして元気いっぱいでした。これは園で見られる風景にも似ていて、これなら緊張せずスムーズに学校生活をスタートできるな、と安心感を覚えました。

その場でメモをとっていると、男の子が「7ならべをしよう」と誘ってくれました。手抜きなしで真剣にという提案だったので、これは負けられないなと私のほうが緊張してしまいました。ゲームが進むにつれ、打ち解けてきて、「7ならべは、ママは弱いけどパパは強い」といった話や、私自身も「昔はよくやったけど、久しぶりだな」などと会話が弾んできました。その楽しそうな雰囲気にも他の子が「入れて」と集まってきます。そこで私は、まだゲームの途中でしたが、子ども同士で対戦するといいと思い、自分の手札を後から来た子に渡しました。そうすると、対戦していた子が自分の手札を半分私にくれたのです。さらに、私が手札を渡した子が、また後から来た子に半分を渡しました。こうして、二人で始めたゲームは、大勢で楽しむものへと変わっていききました。子どもたちのルールや固定観念に縛られない柔軟な対応に意表をつかれつつも、場はより楽しくなりました。

江戸時代後期に良寛という僧侶がいました。和歌や漢詩、書などの分野で高い評価を受けた人物です。良寛は、厳しい修行を経てこたわる心、意図的な作為やはからいなどを捨て去り、心のおもむくままに生きる境地へと到達しました。その結果、子どもたちと一緒にかくれんぼや毬つきなどをして遊ぶよう

になります。今回の7ならべを通じて、私も良寛と同様、子どもは純真でうそ偽りがなく、そこには「こだわり」や「はからい」の必要性は感じられませんでした。そして、その柔軟な行動力やコミュニケーション能力は、生き生きとした生命力を感じさせるもので「生きる力」とはこういうものだ改めて認識しました。

ところが、成長していくにつれて、失敗を恐れ、誰かの指示で引っ張ってもらわないと動けない人がいます。文学博士である外山滋比古氏の著書『思考の整理学』では、人間をグライダーと飛行機に例えて、「学校は、先生や教科書に引っ張られながら勉強する場となり、自力で飛ぶことのできないグライダー人間の訓練所になっている」と断じています。では、エンジンのついた「飛行機人間」とはどういう人でしょうか。私は、「自主性や主体性」のある人間だと考えます。本書では、「人間には、グライダー能力と飛行機能力があり、グライダー能力をまったく欠いては、基本的知識すら習得できない。しかし、新しい文化の創造には飛行機は不可欠である。グライダーにエンジンを搭載するのはどうしたらいいのか。学校も社会もそれを考える必要がある。」と述べています。

この言葉には、私たちが取り組んでいる「真の学力を育む長浜スタイル」の本質が示されています。グライダーの能力つまり基礎的・基本的な学力を教授しつつ、飛行機能力である自主性・主体性を育むために何をすべきかを考えることは、これからの日本における人づくりにおいても極めて重要なことです。私たちの目指すべき道を具現化するために、今年度も研修・研究に主体的に取り組まれることを期待しています。

「真の学力」を身につけた子どもの育成



令和8年度 長浜市教育センター研修体系図



【参考資料】 キャリアステージにおける
資質向上の指標 (滋賀県教育委員会)



教育センター 研究事業・教育奨励事業



研究1年次（未定）

テーマが決定しましたら案内します。ぜひご協力をお願いします。



（例）令和5年度・6年度
園小接続期カリキュラム
実践研究

令和6年度・7年度
自分の考えを表現する力を
高める国語科の授業づくり



研究2年次 （本に関する研究）



読書活動と体験活動をつなげ、自主的な読書習慣の形成につなげる取り組みを実践する。本に親しみ、本とつながる子どもを育成することで、読み取る力や伝える力を磨く。

2年次（令和8年度）
「本に親しみ本とつながる子どもの育成」に関する研究



長浜市教育賞



保育・教育現場での日々の教育活動をまとめ、個々の指導力や組織力の向上を目指す

- ①学校・園実践部門（個人・グループ）
- ②個人実践部門
- ③ユース部門



【昨年度の研究・研修の様子】



学びをつなぐ

研究・研修室長 池田 朱美

子どもたちに「学ぶことは楽しい」と感じてほしい——その願いを支えるのは、学び続ける教師の姿です。教育センターでは、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、日々の授業改善を大切にした研修を進めています。教員一人ひとりが自らの実践を見つめ直し、そこで得た気づきを次の授業へとつなげていく。そうした学びの積み重ねが、日々の教育を少しずつ変えていきます。また、研究事業では、各校がそれぞれの課題に向き合いながら実践を重ね、その成果を共有することで、新たな学びの広がりが生まれています。さらに、教育奨励事業を通して、日々の取組にも光を当て、教員同士が互いに学び合う機会を広げています。こうした営みの中で、子どもたちの学びはより豊かに、そして確かなものへと深まっていきます。学校・家庭・地域が連携しながら、それぞれの場での学びを大切に重ね、子どもたちの未来をともに育てていけると願っています。

教育相談室より

令和 8 年度の事業

不登校や発達に関する教育相談を行うとともに、児童生徒の社会的自立を目指し、個に応じた指導や支援を行います。

ホームページ



登校支援グループ

こどもサポートルーム なないろ

★色々な理由で登校していない、またはたまにしか登校していない子どもたちを対象にした教室です。軽運動やボードゲーム、個々の力に応じた学習などを通して、社会生活や学校生活に適應する力が身につくよう活動や相談を行います。

市内 6 か所に教室を設置 ⇒ 『大地の家』（浅井分庁舎）、『あざい』（浅井体育館横）、『ジョイ』（高月分庁舎）、『みらい』（湖北分庁舎）、『ほっと』（木之本スティックホール内）、『ひまわり』（朝日町・眞行寺内）



なないろ紹介動画



体験なないろ DAY 事業

★気軽にこどもサポートルームを体験できる機会として、年 3 回教室を自由開放します。

カウンセリング事業

★カウンセリングの必要性を感じたときには、ご連絡ください。

カウンセラー 田中 泉（巡回カウンセラー・・・配置校 5 校に加えて対応可）
水谷ゆかり（巡回カウンセラー兼センターカウンセラー・・・配置校 2 校とセンターで対応可）

発達支援グループ

発達サポート事業



★視機能や体の使い方に課題がみられる児童に対し、専門的な立場から年間を通して指導方法等の助言や早期支援を行います。

講師 高橋絵理子 氏（オプトメトリスト…視機能・目の使い方の専門家）
中瀬 弘士 氏（作業療法士……体全般の使い方の専門家）

ひらがなの読み書きプログラム（市内全小学 1 年生を対象に実施）

目的 ・ひらがな清音の確実な習得をめざし、その後の様々な学習上のつまずきに軽減を図る。
・発達上の課題を早期に発見し、個に応じた早期支援につなげる。

「よりよい支援につなげるために」

教育相談室長 清水 としみ

子ども達の観察、検査、コンサルテーション、教育相談等を通して、たくさんの児童生徒や先生、保護者の方々と関わらせていただいています。ケースにより相談内容は様々ですが、子どもたちの問題行動の背景には、発達障害や家庭環境、愛着問題、感覚統合に関わる課題等、様々な要因が絡んでいることがあります。適切な支援を行うために、まずは子どもの実態把握が大切です。生育歴や周りの人との関係、家庭環境、どのような場面で問題行動が起きているのか等、できるだけ多くの情報を元に総合的にアセスメントする必要があります。背景を考える手立てとして、発達サポート事業や検査等から専門家の意見も参考にさせていただければと思います。よりよい支援を一緒に考えていきたいと思っておりますので、必要に応じて教育センターにも相談してください。

本年度も「教育相談室」をよろしくお願いいたします。

ごあいさつ



多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものに

所長 東野 裕賢

各学校園において、子どもを中心とした教育実践や研究・研修を積み重ねられ、本市教育の充実・発展のために日々お取り組みをいただいていることに、深く感謝いたします。

現在国において、次期学習指導要領実施に向けた議論が進んでいます。①「主体的・対話的で深い学び」の実装～授業改善を通じた資質・能力育成の具現化・深化 ②多様性の包摂～一人一人の個性や特性を踏まえた仕組みづくり ③実現性の確保～デジタル学習基盤の充実と総合的な勤務環境整備 が基本的な考え方となっています。

これは本市がここ数年推進してきた「誰一人取り残されない教育の実現」～ICT 活用を通じた授業改善とすべての子どもを主体にした多様な場づくり～ と同じ方向といえます。

教育センターにおいては、先生方より高い専門性と資質向上を目指し研究・研修事業を進め、様々な児童生徒とその保護者や教職員のための教育相談室を開設しています。本年度も国や市が進める「多様な子どもたちの『深い学び』を確かなものに」という理念のもと、「ともに学ぶ」姿勢を大切に、各学校園、先生方を全力で応援いたします。皆様にはセンター機能を大いにご活用いただきますよう、よろしくお願いいたします。

長浜市教育センタースタッフ

所長 東野 裕賢

教育相談室

室長 清水としみ

発達支援グループ

主幹 二宮 直子
相談員 岸 明宏
心理判定員 伊吹 秀世
心理判定員 森川 直美
心理判定員 川瀬 久栄

登校支援グループ

主幹 関 あゆみ
相談員・指導員 宮野 武史
相談員・指導員 吉田 浩之
指導員 大川 彩音
指導員 梶浦 恵子
指導員 後藤よしみ
指導員 藤本和歌子
指導員 宮尾 瑠奈

市カウンセラー

巡回カウンセラー 田中 泉
巡回カウンセラー兼
センターカウンセラー 水谷 ゆかり

研究・研修室

室長
主幹（幼児課兼務）
研究員

池田 朱美
桐畑 良美
佐治智香子

外国人子どもサポート室

室長（研究・研修室長兼務）
主任指導員（ポルトガル語指導員と兼務）
ポルトガル語（指導員）
ポルトガル語（支援員）
サポート支援員
（スペイン語、タガログ語、ベトナム語、中国語通訳）
初期指導員